

【背景】PCI 時において、当院では IVUSmarking にてステント留置を行っている。その際、ステント留置遠位部と近位部の提示として、IVUS のプローブ位置の撮影を行い、術者支援を目的にステントポジションマーカとなる様、ライブモニターに並列して静止画、動画として提示している。しかし、冠動脈の動きにより正確なマーキングポジションへのステント留置は困難であるとする。そこで、マーキングポジションと実際に留置をされたステント位置にどれだけのズレが生じているのかを3枝にて検討を行った【方法】IVUS にてマーキングポジションと留置されたステント留置位置のズレを撮影画像から視覚評価を行う。対象画像は心電図波形から同期させた画像とする【結果】心拍による動きが大きい症例での LAD 近位部病変と RCA 中間部でマーキングポジションとステント留置ポジションとのズレが大きい事が分かった【結語】心拍による動きが大きい症例での LAD 近位部病変と RCA 中間部ではステント留置の際は、冠動脈の動きが少ない遠位部を静止画として表示し、動きの多い近位部は動画として、より静止像を reference として強調することで、術者に視認しやすく、より確実なステント留置につながると思われる。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号